

区分・種別	県指定無形民俗文化財
名 称	かわせかぶき 川瀬歌舞伎
所 在 地	上浮穴郡久万高原町直瀬
保 護 団 体	川瀬歌舞伎保存会
指定年月日	平成12年4月18日
解 説	<p>県内に伝承される唯一の農村歌舞伎である。</p> <p>起源については諸説あるが、最も有力なものは次のとおりである。</p> <p>この地の近くに四国八十八箇所霊場第45番札所海岸山岩屋寺がある。そこを訪れる巡礼者が下直瀬にさしかかった時、病に倒れ、土地の人々は親切に世話をした。やがて巡礼者の病も回復したが、彼はこの地が気に入り永住することになった。そして恩のある周囲の人々に人形芝居を教えた。これが次第に発展し、やがて歌舞伎となり、安政4（1857）年には「三番叟^{さんばそう}」等が上演されるようになった。</p> <p>大正8（1919）年、地域の若者や芝居好きの人たちが集まり、浪曲芝居を始めたのが元で「敷島会」が結成された。その頃、敷島会のリーダー格であった山内恒太郎らが下直瀬の出身の歌舞伎俳優、豊島屋豊次郎らの手ほどきを受けたのがきっかけで、敷島会で歌舞伎を始めることになった。これが、現在の川瀬歌舞伎の始まりとされている。</p> <p>川瀬歌舞伎は戦時中、戦後には衰退したが、昭和36年（1961）2月に下直瀬公民館を中心に川瀬歌舞伎保存会を組織、再興され、現在まで伝承されている。</p>

